

# 伊丹氏と姉妹都市・大村市を結ぶ歴史物語

## ①「大村の歴史と4代藩主大村純長の事績」講演

大村市教育委員会文化振興課 課長補佐 今村 明 氏

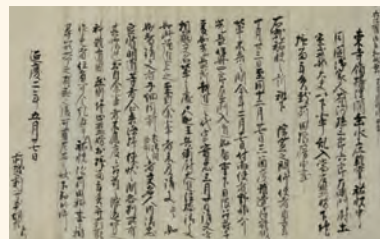
肥前2万7千石の大村藩。その4代藩主は、幕府の重臣伊丹家からの養子で入った純長でした。それまで、キリシタン問題や相続などで、いくどかのお家存続の危機があった大村家。純長の相続によって、一応の安定を見ました。また、純長の藩政においては、その後に残る様々な政策が開始されます。伊丹家と大村家の関係や純長の相続を中心に、それに至るまでの大村の歴史や純長の事績を紹介します。



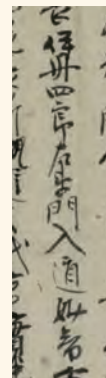
## ②「伊丹氏について」講演

伊丹市立博物館長 亀田 浩 氏

伊丹地方を根拠に活動した伊丹氏は、鎌倉時代の延慶2年(1309)の史料に初めてその名を現します。伊丹地方の鎌倉末期から室町・戦国期は戦乱が絶えない時代で、伊丹氏も相次ぐ合戦に明け暮れる日々を送りましたが、天正2年(1574)に織田信長配下の荒木村重に攻められてこの地を追われました。なお、江戸時代初期に幕府勘定奉行を務めた伊丹氏は、享禄2年(1529)の伊丹城落城の際に落ち延びたとされる伊丹氏の家系です。



伊丹氏の初見史料(「六波羅裁許状案」京都府立京都学・歴史館 東寺百合文書 WEB から)



## ③「桜で繋ぐ伊丹市と大村市」講演

いたみアピールプラン推進協議会 山元 龍治 氏

両市には素晴らしい「桜」という共通点があります。大村市には、「オオムラザクラ」と「クシマザクラ」。共に花卉が多く菊咲します。玖島城跡にある「オオムラザクラ」は、67年に国の天然記念物に指定され、市制30周年を記念して「市の花」に指定されました。「クシマザクラ」も花卉が多く、大村桜より花はやや大きく優美な色です。そして、伊丹市には「日米友好の里帰り桜」。米国ワシントンD.C. のポトマック河畔の桜は伊丹市東野産の台木で作られたもので、その子孫樹が里帰りして毎年きれいな花を咲かせています。



オオムラザクラ

## ●花と歴史のまち大村



「日本さくら名所百選」に選ばれている大村公園の桜



玖島城に咲き誇る30万本の花菖蒲(5月下旬から6月中旬)



毎年8月1日から3日まで開催される「おおむら夏越まつり」の総踊りは圧巻!



「琴平スカイパーク」からは長崎空港が浮かぶ大村湾が一望できます



「メダリオン・無原罪の聖母」(県指定有形文化財) 大村市立史料館蔵



「天正遣欧少年使節顕彰の像」は、長崎空港をつなぐ箕島大橋のたもとに建っています